

「風疹について」

平成 25 年 8 月放送

竹内 元浩

最近、新聞を見ていますと、何日かに 1 回は風疹の記事を目にします。本日は、それほど流行し、今問題になっている風疹の話です。風疹とは、風疹ウイルスによって引き起こされる感染症で、2~3 週間の潜伏期の後、発熱と全身に発疹が出る病気で、特効薬はなく、自然に治るのを待つしかありません。麻しん、つまりはしかに較べると症状は軽く、3 日程度で軽快するため、俗に「3 日ばしか」とも言われます。風疹が一番問題になるのは、実は妊婦さんで、およそ 4 ヶ月くらいまでの妊娠初期にかかると、生まれてくる赤ちゃんに重い障害を起こすことがあります。それが先天性風疹症候群というもので、心臓の奇形、難聴、白内障や、脳の障害など、さまざまな異常が起こります。

さて、今年、風疹は全国で既に 1 万人の人がかかっていますが、その大部分が 20 歳から 40 歳代で、しかも 4 分の 3 以上は男性です。若い成人男性に多い理由は過去の予防接種にあります。現在、風疹ワクチンは、麻しん、つまりはしかのワクチンと一緒に混ぜた麻しん風疹ワクチンを小児期に 2 回接種することになっていますが、30 年ほど前は女子中学生しか打っておらず、その後しばらくして男子も含めた 2 回接種体制がとられたものの、任意接種であったため接種率が低く、十分な免疫を持たない人が多いからです。

そこで、今、厚労省は子どもだけでなく、妊娠前の女性、成人男性、妊婦の家族さんに対しても積極的に風疹ワクチンを打つように呼びかけています。ただし注意点があり、妊娠中の女性は接種できません。これはワクチンが胎児に影響を与える可能性がゼロではないからです。またワクチン接種前 1 ヶ月、お

よび接種後 2 ヶ月は妊娠を避ける必要があります。

また、「自分は過去にかかったから大丈夫」と思っておられる方も、油断禁物です。われわれ医者の診断能力をみずから否定するようで面目ないのですが、風疹の発疹は、他の感染症と似ていることが多く、確実な診断は難しいのです。血液検査で抗体が上がっていることが確認されていれば確実



ですが、過去に診察だけで診断されている場合は、確実ではありません。実際にかかったことがある人が予防接種をしても問題はありませんので、既往暦のある方でも接種をお考えいただきたいと思います。

現在、風疹の流行は東京と大阪圏が中心で、先天性風疹症候群もまだ東京、大阪、名古屋圏にしか発生していません。福井の風疹患者数はまだ十数人ですが、近年まれにない増加率を示しており、今後の成り行きが心配されます。風疹の予防接種は、実際には風疹単独のワクチンが品薄のため、麻しんも混ぜた麻しん風疹ワクチンを打つこととなります。費用は 8,000 円～1 万円程度ですが、市町村によっては費用の助成が始まっていますので、ぜひとも一度、お近くの医療機関にお問い合わせください。不幸な障害をを持つ赤ちゃんを 1 人でも減らすよう、社会全体で協力したいですね。